



令和7年7月18日
浦和明の星幼稚園
園長 栗田 亨

「あっ川だ。川になっている。」雨上がりの朝、登園時の母親の声です。雨が降り続くと園庭には幾筋もの川ができてしまいます。水はけはいいので、雨が上がればすぐに川の流れは消えてしまいます。水はないものの流れの跡を見事に言い当てた言葉です。よく見ると、流れの曲がっている所は角がえぐれ茶色い泥が見え、反対側には白や黒、茶色の細かい砂が小高くなって模様を作っています。白い小粒の石がゴロゴロしている所もあり、「削る・運ぶ・積もらせる」流れる水の働きが見られます。今は、水こそ流れていませんが、正に大河を上空から眺めているような感じです。

先月号で、「オタマジャクシは増えたけど、カエルはどこへ行ったのだろう」と、不思議を疑問形にして表現した子を紹介しました。どうしたら、たくさんの不思議を持つ子が育つのでしょうか。どうしたら自分が見つけた事実を疑問形にして表現するようになるのでしょうか。中々難しい問題です。大人でも、新たな事実を目の当たりにして「それで」と、自分には関係ないとばかり終わらせてしまう人も居れば、「へえー」「なるほど」と感嘆の言葉に表す人も居ればと様々です。一方、床屋に行って髪の毛を短く刈った翌日に、「先生、髪切った」と尋ねる子が居ます。保育室の掲示が変わると、「お部屋の様子が変わった」と変化にすぐ気づき、表現する子も多いと聞きます。どちらかと言えば、子どもの方が変化に敏感なのかも知れません。変化に気付いても言葉にするかどうかは、子どもも其々です。まずは、変化に気付くこと、たくさんの不思議を持つことが大切だと思います。変化に気付く子に育てるためには、先の「川になっている」のお母さんのように、子どもに伝えること。同時に、変化に気付いた我が子を思いっきり褒めることが大切です。できれば、もう一押し「不思議だねえ!」とか、「何でなんだろうねえ?」と、口移しで伝えることで、きっと疑問を持つ子が育つのではないかと思います。

ところで、本日の終業式では、後半一気に暑くなった1学期を振り返りました。5月から毎月新しいお友達が増え、日に日に成長するひかり組さん。親子遠足で子どもだけで並んで記念写真を撮った年少さん、4回も見沼田んぼに出掛け、オタマジャクシなどのたくさんの生き物と不思議に出合った年中さん。下の子の面倒をよく見て、皆で話し合い自分たちのやってみたいを見付け、「はっぴー ふうー! わくわく きらきら かい」に向けて取り組んできた年長さん。毎日幼稚園に通い、元気に「お早うございます」とご挨拶をして、先生やお友達と夢中になって遊び、おいしい全部食べると言って給食をいただいたことで、みんな大きく立派になりました。その姿をお家の皆さんに見ていただくのが、今日の夕方の「納涼祭り」であり、直接見てはいただけませんが子どものやり切った笑顔で感じていただくのが年長のお楽しみ会です。お子さんの成長をご家族と一緒に喜び合いたいと思います。

夏休みは、お子さんをご家庭にお返しします。どうぞお子さんと一緒に、変化に気づき、不思議をたくさん見付けてください。大いに褒めていただく中で、どうしてだろうと問い、できればお子さんと一緒に、親は決して前面に出ることなく疑問の解決に取り組んでみてください。きっとお子さんの不思議発見力や問題解決力が高まります。話は横道にそれますが、園長の夏休みの課題は、15年ほど前に調査した中央区を流れる「高沼用水」の今の姿を確認し、紹介することにしようと考えています。園長もたくさんの不思議を見付けてこようと思います。皆さんも是非、お子さんと一緒にたくさんの不思議を見付けてください。8月の夏季保育では、たくさんの不思議を身に纏ったお子さんと再会するのを楽しみにしています。

1学期の間、園の教育活動にご理解ご協力を賜り誠に有難うございました。よい夏休みを。